

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2017年7月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp



本阿弥新田「助命壇」での夏のお経の練習会

夏のお経の練習会

青少幼年センター部長 安田 雅

今年も暑い夏がやってくる。

夏休みに入ると二週間、ラジオ体操の後に、正信偈のお勤めの練習を中心とした子ども会を毎年行っています。お寺の他に、隣村の本阿弥新田という在所にある「助命壇」(※注)といわれる御堂でも同時に行うため、坊守と分担しています。

毎朝、いつもより早起きをして、しんどい体と頭をたたき起こし、子どもたちを待つ。先を争うように元気がいっぱい本堂を駆け上がってくる姿によって、まず、しんどさを感じていた我が身の姿勢の情けなさを思い知らされます。

入寺して十五年程になりますが、当初は子どもたちに何を伝えよう、楽しませようと必死で趣向を凝らして空回りしていました。

しかし彼らの祖父母、いや、それ以前の子どもたちも同じ夏休みの過ごし方をしてきたという歴史の中で、手を合わせ念仏すること、「正信偈」を一緒に勤めることを通して、私たちにまで形として伝えられているものをいただき、子どもたちと一緒にそのことを確認していく場として開き続けていくことの大事さに気づかせていただきました。

そして、そのことが次世代に確実に手渡されていくことを願っています。

今年も暑い夏がやってくる。

(※注) 本阿弥新田「助命壇」

木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川が伊勢湾に合流する輪中地帯にあって、堤防が貧弱で洪水が頻発していた時代に、地主が土を高く盛り上げて避難場所として建てたもので、普通寺院と変わらぬお内仏を安置して地域住民の信仰の象徴として相続されてきた御堂である。

蓮ちゃん通信 その①

夏休みは東本願寺に泊まろう!

今年も7月末から8月下旬にかけて、「同朋ジュニア大会」や「真宗本願寺子ども奉仕団」、「真宗本願寺中学生・高校生奉仕団」が開催されます。ぜひ、お誘いあわせご参加ください♪

詳しくは、東本願寺

検索



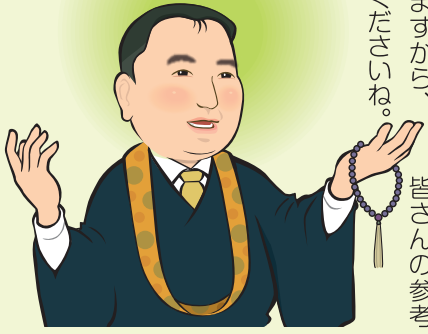
無いという思い込み、 有るという決めつけを破ろう

金沢教区 平野 喜之

先ほど皆さんとお勤めした正信偈に「悉能摧破有無見」といって、よく有無の見を摧破せよ」といって言葉があります。今日は、この言葉が私たちに何を呼びかけているかを一緒に考えてみたいと思います。

そのために、皆さんにクイズを出すことにします。では第一問。「いつも身近に有って私たちをたすけてくれているのに、目に見えないから無い」と思い込んでゐるもの、な〜んだ。続いて、第二問。「いかにも有るように思えるから有るような気がするけど、よく考えてみると無いもの、な〜んだ」。

どうですか、この二つ問題に間違いや正解はないので、なんでも自由に答えて下さいね。これから私なりの答えを言いますから、皆さんの参考にして下さいね。



まず第一問についてです。ある小学校の先生が、生徒にこんな質問をされたそうです。「先生、のどちんこは何のためにあるの?」。その先生はすぐには答えられなかったそうです。皆さんはどう思いますか。のどちんこは、「のどびこ」とか「つわじた」とも呼ばれていますが、「口蓋垂」が正式な名前です。慌てて水を飲んだりご飯を食べたりすると、水が鼻に入ったりが飯粒が気管支のほうへ入って咳き込むことがありますね。のどちんこは、そうならないようにふたをしてくれる役割を果たしているのです。目には見えないけれど、大事な役割を果たしてくれているのですね。

自分の身体ではないものでは、何か思いつきますか? 空気がそうじゃありませんか。「空気が」という言葉を考えた人が誰かは知りませんが、私はその人はたいしたものだと思いますね。だって、目に見えないはたらきに気づいて、しかもそのはたらきに名前を付けたのですから。名づけたことよって、他の人も気づくようになったのですからね。空気以

子どもたちと聞く法話

外はどうですか。光もそつではありませんか。皆さんがものを見ることのできるの、じつは光のはたらきがあるからです。えっ? 眼があれば見えるって? では、真つ暗な押入れの中に入って本を読もうとして下さい。光のありがたさがわかります。それに、光があるから眼があるのですよ。光のない世界には、眼は必要ありません。その証拠に、光の届かない世界に住んでいる深海魚の中には眼がないものもありますからね。第一問の答えはまだまだあるでしょう。おうちに帰ったら、ご家族の方と考えてみて下さいね。

では次に、第二問について考えてみましょう。私たちは、どれだけ人の役に立っているか、どれだけ地位が高いかで、いのちをランクづけしていないでしょうか? そもそもいのちにランクなんて無いのに、「有る」と決めつけていないでしょうか? ぶだんはなかなか、自分たちがいのちにランクづけをして差別していることに気づかないかもしれませんが、戦争のときには、はっきりとそういう考え方が表に出てきます。戦争になると、作戦を立てる人たちが作戦を実行せよと命令をする人たちのいのちは大事にされても、作戦を実行する兵隊さんたちのいのちが軽く考えられてしまいがちです。また作戦

の役に立つかどうかで、兵隊さんが差別されるもします。このこともまた、おうちの方とを考えてみて下さいね。

私たちは、本当は有るのにもかかわらず気づかないで無いと思ひ込んでいたり、よく考えてみれば無いのに有ると決めつけていたりします。この「悉能摧破有無見」といって、よく有無の見を摧破せよ」といって言葉は、仏さまの教えを聞くことよって、そういう思い込みや決めつけをことごとく破ってほしいと、私たちに呼びかけているのです。

これで朝のお話を終わります。最後に阿弥陀様に向かって合掌してお念仏申しましょ。なむあみだぶつ、なむあみだぶつ

蓮ちゃん通信 その②

寺院・僧侶向けリーフレット

ひとりからはじめるために

~青少年センターが提案する
日常生活や法務での“ひと工夫”~

今ある仏事の場にひと工夫を加えることで青少年が教えに出会う場とするための取り組みとして、新たなリーフレットを発行しました。表面は、ポスターとして掲示することができます。必要部数無償にて送付いたします。詳しくは、青少年センターまで。



発行!



どこかな？

どこかな？

ひとりからはじめる
イベントレシピ

この場所さがせ!! ゲーム



写真に写されたものを
みんなで探しにいこう!
同じアングルで上手に写真を撮れるかな？

あった!!

用意するもの… デジタルカメラ (チーム数分)



1 あらかじめ、見つけてもらいたい場所や物を写真に撮り、
プリントアウトしておきます。

2 事前に難易度別で得点をつけておきます。(参加者には答えあわせまで
得点は伏せておきます)

変わった
アングルで撮ると
難易度が高く
なります。

3 参加者に写真一覧を渡し、
制限時間内に写真にある場所や物を探してもらい、
同じアングルの写真を撮ってもらいます。

4 答えあわせをして、
得点の高いチームの勝ち!

バキバキ!



《注意事項》

- 暑い日に外へ出る場合は、
帽子や水筒を忘れずに!
- チームで写真を撮る時は
「ゆずりあいしようね!」と声掛けを!



町内、境内、
本堂など
エリアを決めて
遊べます。

ワンポイント
アドバイス

チームでも
個人でも
遊べます。

蓮ちゃん通信 その③

各種教材・記念品について

青少幼年センターが取り扱う教材・記念品は、真宗大谷派寺院・教会専用サイトでご覧いただけます。

詳しくは、

<http://www.higashihonganji.or.jp/ohtaniha/>
「寺院・教会専用サイト」→「各種物品販売」

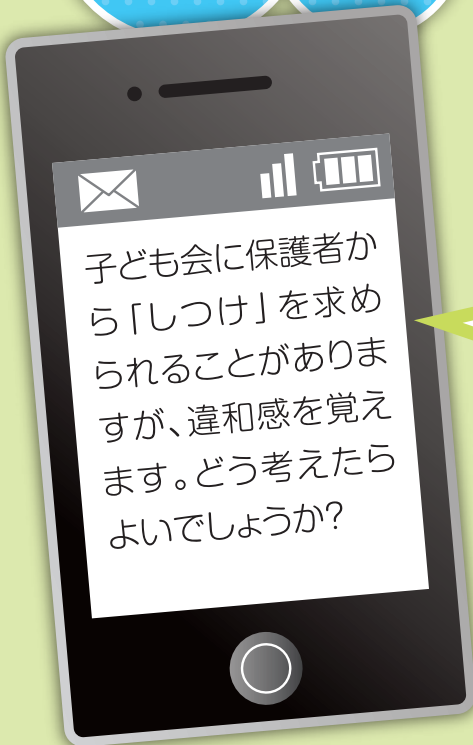


※最新の教材情報等を掲載した子ども会開設の手引き「ひとりからはじめる子ども会」改訂第3版ができました。必要部数を無償で送付します。詳しくは、青少幼年センターまで。

Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



子ども会に保護者から「しつけ」を求められることがありますが、違和感を覚えます。どう考えたらよいでしょうか？

さがえ なつみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少幼年センター研究員。カウンセラーネーム「サガエさん」です。東本願寺出版より最新刊『すべてが君の足あとだから—人生の道案内—』発売中。



わたしたちが伝えたいこと

わたしたちが保護者から、お寺の子ども会だから「しつけ」をしてくださいとお願いされると、違和感を感じることがあります。それは、保護者の考えやおもいが「時代や社会」で生きていくためのルールや規範を身につけることを意味しているからでしょう。「時代や社会」はおとなたちが「よかれ」とつくり上げてきたものといえるかもしれません。その「時代や社会」に適応し、はみ出さないためのルールや規範をお寺で、また、お寺の子ども会で身につけさせてくださいと託されれば、違和感を感じるのが当然かもしれません。

「時代や社会」の価値観や考え方には、^{はやり}流行があります。一方で、わたしたちにはお寺の子ども会を開いて、伝えたいことがあります。それは、なにか「付加価値」を身につけて生きていくことではありません。お寺でみんなと感じて、そして、身につけてもらいたいのは、仏教で説かれているように「付加価値」がはがれて真の人間に出会うことなのです。

おとなも子どもも、いつの時代も「祈り」のすがたはすてきです。戦う人間のすがたほど醜悪なものはありません。「祈り」は、身につけたいことのひとつです。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください！

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派の青少幼年教化の情報をお届けします！

蓮ちゃん通信 その4

青少幼年センターのフェイスブックページ開設!!



<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>
※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

◎たとえ子ども会開設が難しくとも、今あることへの「ひと工夫」で出あえる青少幼年がいる。「お坊さんって、何してるの?」という言葉が目を引くリーフレットができました。僧侶にとっては日常的な法務のひと時、身近な方の「死」を通して、如来の不思議の足音に子どもと並び耳を傾ける…。そこから伝わるものがきこつとある。どこまでもどこまでも地道に、「ひとりから」。本紙も創刊五年目を迎えます。(青七主幹)

◎「子ども会」と言われてイメージする内容はどんなものでしょうか?イメージにとらわれて、動けずにいる…という方もおられると思います。「ひとりから」できることを一つでも見つけて始めてみませんか。これからは、その歩みに寄り添う『ひとりから』でありたいと思います。(編集長)

編集後記

